

## 福生市 下水道ストックマネジメント計画（案）

福生市都市建設部道路下水道課

策定 平成 31 年 3 月

改定 令和 8 年 3 月

福生市の公共下水道事業は、昭和 48 年度に JR 青梅線福生駅を中心とした周辺市街地を対象に、第一期 131.0ha の事業認可を受け、以後昭和 56 年度には横田基地を除く全市街地に事業区域を拡張し汚水事業と雨水事業を行っている。現在では市内全域で管きょは、約 238km（汚水 165km，雨水 73km）、マンホールふたは約 7,822 箇所（汚水 6,012 箇所、雨水 1,810 箇所）設置されている。

ストックマネジメントの実施にあたっては、下水道施設のリスク評価を踏まえ、施設管理の目標及び長期的な改築事業のシナリオ設定、点検・調査計画及び修繕・改築計画を策定することとする。

また、これら計画の評価と見直しを行うとともに、施設情報を蓄積してストックマネジメントの精度向上を図っていく。

### ① スtockマネジメント実施の基本方針

#### 【状態監視保全】…

機能発揮上、重要な施設であり、調査により劣化状況の把握が可能である施設を対象とする。

※状態監視保全とは、「施設・設備の劣化状況や動作状況の確認を行い、その状態に応じて対策を行う管理方法をいう。

#### 【時間計画保全】…

機能発揮上、重要な施設であるが、劣化状況の把握が困難な施設を対象とする。

※時間計画保全とは、「施設・設備の特性に応じて予め定めた周期（目標耐用年数等）により対策を行う管理方法をいう。

#### 【事後保全】…

機能上、特に重要でない施設を対象とする。

※事後保全とは、「施設・設備の異状の兆候（機能低下等）や故障の発生後に対策を行う管理方法をいう。

備考) スtockマネジメントの実施にあたっての、施設の管理区分の設定方針を記載する。

② 施設の管理区分の設定

1) 状態監視保全施設

【管路施設】(汚水・雨水)

施設名称	点検・調査頻度	改築の判定基準	備考
管きよ、マンホール	1 回/5 の頻度で点検を実施。		腐食の恐れの大い箇所、現在該当施設なし
管きよ、マンホール、マンホールふた	1 回/20 年の頻度で点検を実施(点検で異状を確認した場合には調査を実施)	緊急度Ⅰ・Ⅱで修繕・改築を検討	
取付管 (緊急輸送路下)のみ	1 回/20 年程度の頻度で点検を実施(点検で異状を確認した場合には調査を実施)	緊急度Ⅰ・Ⅱで修繕・改築を検討	

2) 時間計画保全施設

【管路施設】

施設名称	目標耐用年数	備考
該当施設なし		

3) 主要な施設の管理区分を事後保全とする場合の理由

【管きょ施設】 …

—

【汚水ポンプ施設】 …

ポンプ本体

—

③ 改築実施計画

1) 計画期間

令和 8 年度 ～ 令和 31 年度

2) 個別施設の改築計画

【管路施設】

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
年度	処理区・排水 区の名称	合流・汚 水・雨水 の別	対象 施設	布設 年度	供用 年数	対象延長 (m)	概算費用 (百万円)	備考
令和 8 年度	福生南部第 2 処理分区 第 1 期	汚水	管きょ・マ ンホール	1977 年度	48 年	2,790	200	想定値
令和 9 年度	福生南部第 2 処理分区 第 2 期	汚水	管きょ・マ ンホール	1976 年度	48 年	3,160	225	想定値
令和 10 年度	福生南部第 3 処理分 区・羽村第 6 処理分区・立 川第 2 処理 分区	汚水	管きょ・マ ンホール	1978 年度	46 年	3,000	250	想定値
令和 11 年度	福生南部第 1 処理分区	汚水	管きょ・マ ンホール	1976 年度	48 年	3,730	275	想定値
令和 12 年度	幹線	雨水	管きょ・マ ンホール	1963 年度	61 年	347	259	想定値
令和 13 年度	雨水 104	雨水	管きょ・マ ンホール	1963 年度	61 年	444	193	想定値
令和 14 年度	雨水 105	雨水	管きょ・マ ンホール	1961 年度	63 年	448	190	想定値
令和 15 年度	雨水 101	雨水	管きょ・マ ンホール	1973 年度	51 年	496	218	想定値

令和 16 年度	雨水 102	雨水	管きよ・マンホール	1975 年度	49 年	456	136	想定値
令和 17 年度	雨水 103	雨水	管きよ・マンホール	1971 年度	53 年	416	202	想定値
令和 18 年度	幹線	汚水	管きよ・マンホール	1975 年度	49 年	387	194	想定値
令和 19 年度	汚 110	汚水	管きよ・マンホール	1975 年度	49 年	471	129	想定値
令和 20 年度	汚 111	汚水	管きよ・マンホール	1975 年度	49 年	494	135	想定値
令和 21 年度	汚 109	汚水	管きよ・マンホール	1975 年度	49 年	494	124	想定値
令和 22 年度	汚 108	汚水	管きよ・マンホール	1975 年度	49 年	494	134	想定値
令和 23 年度	汚 113	汚水	管きよ・マンホール	1975 年度	49 年	494	122	想定値
令和 24 年度	汚 105	汚水	管きよ・マンホール	1977 年度	47 年	516	128	想定値
令和 25 年度	汚 104	汚水	管きよ・マンホール	1977 年度	47 年	420	108	想定値
令和 26 年度	汚 107	汚水	管きよ・マンホール	1975 年度	49 年	481	129	想定値
令和 27 年度	汚 106	汚水	管きよ・マンホール	1975 年度	49 年	480	136	想定値
令和 28 年度	汚 112	汚水	管きよ・マンホール	1977 年度	47 年	502	125	想定値
令和 29 年度	汚 102	汚水	管きよ・マンホール	1975 年度	49 年	463	126	想定値
令和 30 年度	汚 101	汚水	管きよ・マンホール	1978 年度	46 年	424	121	想定値
令和 31 年度	汚 103	汚水	管きよ・マンホール	1977 年度	47 年	479	136	想定値
合計	合計						3,995	

備考 1) 改築を実施する施設のうち、② 1)において状態監視保全施設に分類したものを記載する。

備考 2) 対象施設には、改築を行う部位、設備名称を記載する。記載にあたっては、「下水道施設の

改築について（令和4年4月1日 国水下水第67号 下水道事業課長通知）」別表の中分類もしくは小分類を参考とする。

備考3)「下水道施設の改築について（令和4年4月1日 国水下水第67号 下水道事業課長通知）」別表に定める年数を経過していない施設については、備考欄において、同通知に定める「特殊な環境により機能維持が困難となった場合等」の内容について、以下の該当する番号及び概要を記載する。

- ① 塩害など避けられない自然条件あるいは著しい腐食の発生など計画段階では想定しえない特殊な環境条件により機能維持が困難となった場合
- ② 施設の運転に必要なハード、ソフト機器の製造が中止されるなど、施設維持に支障をきたす場合
- ③ 省エネ機器の導入等により維持管理費の軽減が見込まれるなど、ライフサイクルコストの観点から改築することが経済的である場合
- ④ 高温焼却の新たな導入等により下水汚泥の焼却に伴い発生する一酸化二窒素（ $\text{N}_2\text{O}$ ）排出量を削減する場合
- ⑤ 地球温暖化対策の推進に関する法律（平成10年法律第117号）に規定する「地方公共団体実行計画」に位置づけられ、当該計画の目標達成のために施設機能を向上させる必要がある場合
- ⑥ 標準活性汚泥法その他これと同程度に下水を処理することができる方法より高度な処理方法により放流水質を向上させる場合
- ⑦ 下水道施設の耐震化を行う場合
- ⑧ 浸水に対する安全度を向上させる場合
- ⑨ 下水道施設の耐水化を行う場合
- ⑩ 樋門等の自動化・無動力化・遠隔化を行う場合
- ⑪ マンホールふた浮上防止対策を行う場合
- ⑫ 合流式下水道を改善する場合

備考4) 改築事業の実施にあたっては、別途、詳細設計等において効率的な手法等を検討すること。

#### ④ スtockマネジメントの導入によるコスト削減効果

概ねのコスト削減額	試算の対象時期
約631百万円/年	概ね100年

備考) 標準耐用年数で全てを改築した場合と比較して、②に基づき健全度・緊急度等や目標耐用年数を基本として改築を実施した場合のコスト削減額を記載する。